

かなざわ次世代エネルギーパーク

金沢市では「エネルギー自立都市」の実現に向けて、これまで個々に再生可能エネルギーの導入を進めてきましたが、まち全体を『かなざわ次世代エネルギーパーク』と位置づけ、再生可能エネルギーの導入計画を総合的に展開し、「金沢らしい」次世代エネルギーのあり方を広くアピールするものであり、平成26年度に認定されました。

西部環境エネルギーセンター

ごみの焼却で発生する熱を利用した廃棄物発電をおこなっています。発電した電力は施設内で使用のほか、余剰電力は売電。また、余熱利用として施設内や近隣施設に温水を供給しています。「見て・ふれて・学べる」環境学習コーナーを備えた拠点施設です。

新エネルギーの種類 **バイオマス・太陽光**
(廃棄物)

最大発電出力(バイオマス) **7,000kW**

最大発電出力(太陽光) **5kW**



戸室リサイクルプラザ

タマゴ型の特徴ある建物屋上にある太陽光発電は、施設使用電力の約半分をまかなっています。また、太陽熱で発生した温水は施設内の浴場でも利用しています。3Fを楽しく学べる展示コーナーもあります。

新エネルギーの種類 **太陽光・太陽熱・風力**

最大発電出力(太陽光) **70kW**

最大発電出力(風力) **0.3kW**



城北水質管理センター

下水処理の工程で発生するバイオガスを有効利用した発電施設。発電した電力は施設内で使用しています。また、発電時に発生する熱は下水消化タンクの加温に有効利用しています。下水処理のしくみを学ぶこともできます。

新エネルギーの種類 **バイオマス・風力・小水力**
(消化ガス)

最大発電出力(バイオマス) **200kW**

最大発電出力(風力・小水力) **各2kW**



歴史を刻む自然エネルギーの活用

金沢市の発電事業は、大正10年に金沢電気瓦斯株式会社より電気事業を受け継いで以来、90余年にわたる永い歴史が刻まれています。

昭和17年、戦時下の電力を管理下に置く配電統制令により一度は解散を余儀なくされましたが、犀川総合開発事業によって、昭和41年に上寺津発電所を建設しました。現在は、5ヵ所の水力発電所を設け、年間発電量約140,000千kWhは、一般家庭約40,000戸分、金沢市内の家庭における使用電力量の約20%に相当します。

また、金沢市は全国の公営電気事業者の中で唯一の市営電気事業者です。



名称	上寺津	新辰巳	新寺津	新内川	新内川第二
所在地	寺津町丙23	上辰巳町6の205	寺津町丙24の5	小原町チ25の4	堂町ツ35の1
最大出力(kW)	16,200	6,200	430	7,400	3,000
最大使用水量(m³/s)	12.00	10.00	1.10	8.00	3.70
有効落差(m)	161.30	73.00	52.70	113.50	100.60
発電型式	ダム水路	水路	水路	ダム水路	水路
取水ダム	犀川ダム	上寺津ダム	—	内川ダム	—
水車型式	縦軸フランシス	横軸フランシス	クロスフロー	縦軸フランシス	横軸フランシス
発電開始年月日	昭和41.1.29	昭和46.3.30	昭和56.12.28	昭和59.12.26	昭和63.12.23
供給電力量(千kWh)	約140,000／年				



春

金沢には、金沢城公園や兼六園、犀川や浅野川の河川敷、卯辰山など多くの桜の名所があります。桜以外にも、ツツジやカキツバタなどが春の金沢を彩ります。(金沢城公園)



夏

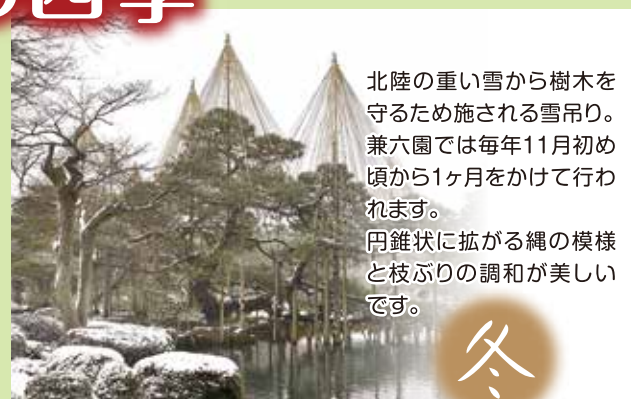
夏の風物詩といえば百万石まつり。加賀藩初代藩主前田利家公の金沢入城にちなんで6月に開催されます。メインイベントの百万石行列は、毎年多くの見物客で賑わいます。

金沢の四季



秋

中心部では金沢城や兼六園周辺で美しい紅葉が見られ、カエデやイチヨウが次々とまを染め上げます。しっとりと紅葉を楽しむなら郊外の大乗寺などもお勧めです。



冬

北陸の重い雪から樹木を守るため施される雪吊り。兼六園では毎年11月初め頃から1ヶ月をかけて行われます。円錐状に広がる縄の模様と枝ぶりの調和が美しいです。



エネルギー自立都市金沢の実現に向けて

かなざわ次世代エネルギーパーク

